

塩 しお

塩は、日本の食生活で、特につけものが一番関係し

ています。さらに、相撲の時にしきる前に塩をまいて

清めたり、いやな人が帰った後に玄關に塩をまく

習慣もあります。イエスさまの時代の人々が全く同

じょうな習慣を持っていたわけではありませんが、

塩が清めのために使われていた事がわかります。

しかし、ただ清めるだけではなく、塩が味の変わら

ぬものとして、「自分自身の内に塩を持ちなさい。そ

して、互いに平和に過ごしなさい」というイエスさま

の言葉が伝えられています。これは変わらない友情

のしるしとして、塩が使われていた事を示しています。

塩がすべてのものに味を付けるように、すべての人

の価値を見いだし、どんな人間にも値打ちがある事を

示す必要があります。

イエスさまはその時代の人々から罪人とけいべつ

されていた人々の中にこそ値打ちがある事を見いだ

しました。そして、むしろその時代の支配者や、えら

い地位についていた人々には値打ちがないと主張し

ました。

社会しゃかいの中なかであまり必要ひつようとされず、じやまものあつか

いされている人ひと、一人ひとりひとりに価値かちがある事ことを見い

す役割やくわりを私わたしたちは持もっています。これはイエスさま

が一番大切いちばんたいせつにしていた事ことです。今いまの社会しゃかいの中なかで大切たいせつ

されている価値かちではなく、一人ひとりひとりの人間にんげんの持もって

いる価値かちを大切たいせつにし、それを守まもり育そだてていく役割やくわりがあ

ります。

持もち味あじを活いかす

自分じぶんの持もち味あじを活いかして、持もっている力ちからを人ひとのた

めに使つかっていく必要ひつようがあります。そのためには、自分じぶん

にはどんな持もち味あじがあるかを考かんがえて、思おもいついたこ
とを次つぎの空白くうはくに書かいて下ください。

